

令和 7 年 3 月 28 日

児童発達支援センター「きらきら園」様

(評価者) 児童発達支援センターうさぎ園 (大野木康夫)

令和 6 年度自己評価に係る外部評価の結果について (報告)

令和 6 年度自己評価の項目について、以下の通り外部評価を実施しましたので、評価結果についてご報告いたします。

1. 訪問日

令和 7 年 3 月 28 日

2. 外部評価の結果

項目		コメント
自己評価総括表 (別紙 3) について		療育に加え、「入口機能」としての個別相談を行われるなど、児童発達支援センターの役割を十二分に果たしておられます。
自己評価シート (保護者用・事業者用) (別紙 4、5) について	環境・体制整備	古い建物の中、様々な工夫により良好な療育環境の維持に努められています。体制についてはグループで子ども 2 人につき 1 名と十分な配置をされており、保護者からも高く評価されています。
	業務改善	職員が意見を出し合えるような風通しの良い職場であることがうかがえます。研修については、法人での研修に加え、施設内研修の充実を図られるなど、一層の充実を図られています。
	適切な支援の提供	全体的に高い評価となっており、子どもや保護者の支援が適切に行われていることがうかがえます。実施が難しい地域での取組も工夫して試行されています。
	関係機関や保護者との連携、保護者への説明等	自立支援支援協議会・子どもネットワーク協議会に参加されるとともに、子どもはぐくみ室の事業にも運営側で参加されています。保護者対応についても保護者の評価が高く、適切に行われていることがうかがえます。
	非常時等の対応	各種マニュアルについて、改善に取り組まれています。訓練等については現在職員で行われており、利用児の参加は課題があるが今後考えるということでした。
保育所等訪問支援について		保護者、施設ともに高い評価を受けています。通所できなくなった子どもに保育所等訪問支援を行われたことは、大変参考になりました。
その他		地域の方対象の個別相談の定期実施、行政の事業に運営で参加するなど、積極的に児童発達支援センターとしての役割を果たされています。